

法蔵館書店ニュース 2月

目次

話題の本	P1	特集1:「葬儀」と「死」のゆくえ	P12~13
法蔵館新刊案内	P2	特集2:多摩親鸞講座講義録	P14
法蔵館重版案内	P3	お知らせ	P15
法蔵館刊行予定案内	P3~4	法蔵館書店ベスト10・メール配信サービスご案内	P16
法蔵館書店新着案内	P4~11		

★お知らせ★ 2、3月の書店休業日

2月のお休み：6日・13日・20日・27日

3月のお休み：6日・13日・20日・27日

話題の本

●中外日報 (2022/1/12) ●仏教タイムス (2022/1/1)

『私が生まれてきた訳は—中村久子の声を聞く』

青木 馨著・四六判・114頁・2,200円・ISBN:978-4-8318-5719-4



●新宗教新聞 (2022/1/1) ●文化時報 (2022/1/1)

『悲劇の宗政家 前田誠節—臨済宗妙心寺派の近代史』

藤田和敏著・四六判・202頁・1,980円・ISBN:978-4-8318-7749-9



●文化時報 (2022/1/1)

聖徳太子千四百年御聖忌記念出版

『聖徳太子と四天王寺』

和宗総本山 四天王寺編・石川知彦監修・B5変判・304頁・3,080円

ISBN:978-4-8318-6070-5



●文化時報 (2022/1/1)

『親鸞とマルクス主義—闘争・イデオロギー・普遍性』

近藤俊太郎著・A5判・544頁・8,250円・ISBN:978-4-8318-5565-7



●奈良新聞 (2021/12/12)

【法蔵館文庫】

『天平芸術の工房』

武者小路 穰著・山岸公基解説・文庫判・240頁・1,320円

ISBN:978-4-8318-2627-5



●社会福祉研究 第142号 (2021/12/1)

『吉田久一とその時代—仏教史と社会事業史の探求』

大谷栄一、大友昌子、永岡正己、長谷川 匡俊、林 淳編

A5判・552頁・5,500円・ISBN:978-4-8318-5563-3



法蔵館新刊案内

◆ひとりふたり・・——春彼岸を迎える

【真宗／仏教】

試し読み



四衢 亮編・A5判・24頁・136円

※30部以上は1部110円、100冊以上は送料無料

身近な話題から仏教・真宗の教えにふれる聞法誌。

【定期購読受付中!】定期購読をお申込みいただくと……

通常注文より、優先的にいち早くお届け!

買い忘れなく安心! などのお得感満載!

詳しくは、法蔵館書店までお問い合わせください。



《目次》

- ◎いのちの言葉 甦る …………… 渋谷幸靖
- ◎真宗で終活! 仏教の終活——仏の教えに尋ねる …………… 小林尚樹
- ◎はてな仏教用語 境界…………… 木村宣彰
- ◎真宗のしきたりの不思議
お仏壇へお供えしたらいけないものは? …………… 松本智量
- ◎おうちで精進料理(春) 春小かぶのバター炒め …………… 西川玄房
- ◎カンタン英語で浄土真宗入門 英語で和讃に親しむ …………… 大來尚順
- ◎お寺でヨーガ 春のヨーガ
全身調整——身も心も調え、整える!! 最終章の巻… Yai
- ◎真宗の名言名句 あなたはあなたで 在ればよい。
あなたは あなたに成ればよい。………… 渡邊晃純



◆新装版 現代に立つ親鸞

【仏教／哲学】

星野元豊著・四六判・168頁・1,650円・ISBN: 978-4-8318-6581-6

ほんとうの人生とは何か。乱世のなかに真実を追求してやまなかった親鸞精神こそが対立解消の世界であることと感得した一冊。

■目次

- 第一章 比叡山にある親鸞
- 第二章 流罪と愚禿
- 第三章 親鸞の信心
- 第四章 真実の人生と信心
- 第五章 すでに來ていた弥陀の本願力
- 第六章 真実信の世界 ほか

試し読み



法蔵館重版案内

◆親鸞とマルクス主義

—— 闘争・イデオロギー・普遍性

2刷 【思想史／近現代】

近藤俊太郎著・A5判・544頁・8,250円・ISBN:978-4-8318-5565-7

近現代日本において、マルクス主義と交差した局面で構築された親鸞論に注目し、「親鸞を語る」という営為の思想的意義を検証する。

■目次

- 序 章 親鸞とマルクス主義への入射角
第Ⅰ部 仏教とマルクス主義—解放と阿片の間—
第Ⅱ部 戦時日本の親鸞—危機の時代との向き合い方—
第Ⅲ部 戦後日本の親鸞—起動する社会的実践— ほか



法蔵館刊行予定案内

〈2022年3月 刊行予定〉

◆死と運命—— 中国古代の思索

法蔵館文庫

【哲学／思想】

金谷 治著、中嶋隆藏解説・文庫判・272頁・1,210円・ISBN:978-4-8318-2632-9

孔子、孟子、老子、莊子、荀子等の言葉をてがかりに、中国古代における死、運命、欲望に関する思索を討尋し、生存の意味を追求する。

◆世界文学としての方丈記

【文学】

ゴウランガ チャラン・プラダン著・四六判・360頁・4,950円・ISBN:978-4-8318-7756-7

夏目漱石が世界に紹介した方丈記は、何がそぎ落とされ、どう読み替えられたのか。20世紀欧米での享受史を追う。

◆『注大般涅槃經』の文献学的研究

【仏教学】

青木佳伶著・A5判・472頁・9,900円・ISBN:978-4-8318-6392-8

重要文化財にも指定される『注大般涅槃經』。現存巻のうち二、八、十二、二十二を中心に取り上げ、その全体像の解明を企てる。資料篇には四巻の全文翻刻を掲載。

◆貞慶撰『唯識論尋思鈔』の研究

【仏教学】

—— 「別要」教理篇・上 [龍谷大学仏教文化研究叢書]

楠 淳澄、後藤康夫編・A5判・1,484頁・22,000円・ISBN:978-4-8318-6393-5

法相教学確立に大きく貢献した解脱房貞慶。その代表作『尋思別要』の論義テーマ七十余条のうち二十九条について翻刻・訓読・語註・解説を掲載する翻刻読解研究書。

◆雲岡石窟中小窟龕の展開—— 装飾・空間・工人

熊坂聡美著・B5判・316頁・13,200円・ISBN:978-4-8318-6330-0

【中国仏教美術】

巨大石窟造営の原動力は何だったのか。国家事業である大型窟とは異なり、皇帝以外の人々が発願し造像した中小窟龕を通して雲岡石窟の全体像に迫る。

◆綱島梁川の宗教哲学と実践

古荘匡義著・A5判・248頁・1,980円・ISBN:978-4-8318-6394-2

【哲学／思想】

明治時代、煩悶青年を魅了した思想家・綱島梁川。「宗教哲学」と呼びうる哲学的な宗教論と祈禱や伝道といった「宗教実践」を分析し、綱島思想の展開を描出する。

法 藏 館 書 店 新 着 案 内

◆続 部落解放論の最前線

—— 水平社100年をふまえた新たな展望

朝治 武、谷元昭信、寺木伸明、友永健三編著・A5判・455頁・3,300円〈解放出版社〉

部落解放論研究会は2015年7月に発足し、歴史的視点のもとより広い視野に立って、被差別部落と部落差別の変容、部落差別の存続要因、主要な部落解放理論、部落解放運動のあり方、部落解放への道筋と展望などの研究活動を進めてきた。2018年5月から研究会は第二期に入り、第一期の成果と問題点をふまえ、部落解放運動、部落問題、歴史認識をめぐる現状と課題を深く掘り下げるだけでなく、部落解放と深く関係する被差別マイノリティと反差別・人権をめぐる課題にも視野を広げてきた。この第二期の充実した報告内容をまとめ、2022年の全国水平社創立100年に向けて、あらたな展望を提案する。第一期の成果をまとめた『部落解放論の最前線——多角的な視点からの展望』の続編。



京都の中世史1

◆摂関政治から院政へ

美川 圭、佐古愛己、辻 浩和著
四六判・255頁・2,970円

〈吉川弘文館〉

藤原氏が国政を掌握した摂関政治をへて、上皇による院政が始まる。政務のしくみや運営方法・財源などを、政治権力の転変とともに活写。寺院造営や人口増加で都市域が拡大し、平安京が京都へ変貌する胎動期を描く。



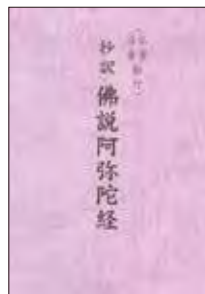
◆抄訳 佛説阿弥陀経

—— 仏事・日常勤行

豊原大成編訳・B6判・47頁・440円

〈自照社〉

「しんじんのうた」「十二礼」の譜で誦える格調高い「意識勤行」を復刊。三奉請、礼讃文、抄訳阿弥陀経（前・後段）、念仏、回向句などを収録。巻末に用語解説、「『譜』」の音の高さと長さについて」も掲載する。



◆Q&A浄土真宗の?に答えます

尾畑文正著・B6判・31頁・165円

〈東本願寺出版〉

約800年前の鎌倉時代に親鸞が開いた浄土真宗。お寺の数も多く、日本人にはいちばん身近な仏教の一つであるにもかかわらず、その中身はよく知られていないのでは?! そこで、浄土真宗にまつわる素朴な疑問から、教えや歴史などをQ&A形式でわかりやすく紐解く小冊子。月刊誌『同朋』2021年1月号特別企画の内容を加筆修正し冊子化。



◆ブラックホールの阿弥陀さま

—— どこにも見えないけれど、
どこにでもいらっしゃるんだよ

今小路寛真著・四六判・231頁・1,760円

〈京都通信社〉

阿弥陀さまはどこにいて、どうされているのか。浄土真宗のお坊さんが、数字のゼロや天空のブラックホールを例に、ほとけさまの姿に迫る。また、現代のお坊さんが、いのち、恋、政治などにどう関わろうとしているのかも述べる。



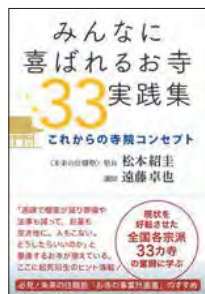
◆みんなに喜ばれるお寺33実践集

—— これからの寺院コンセプト

松本紹圭、遠藤卓也著・四六判・307頁・2,530円

〈興山舎〉

お寺の現状を好転させた全国各宗派33カ寺の奮闘に学ぶ。『月刊住職』に好評連載の「今からこれから未来の仏教ラボ」をもとに再編集をした本。本書で、自分のお寺がやりたいことや本当にできる方法が分かり実践までのステップが明確になる。



◆『阿毘達磨集論』の伝承

—— インドからチベットへ、そして過去から未来へ

高橋晃一、根本裕史編・A5判・161頁・2,640円 〈文学通信〉

5世紀ごろにインドの学僧アサンガによって書かれた仏教の哲学文献『阿毘達磨集論』。その写本研究、原典読解、思想研究の最先端の成果を紹介し、今後の研究の展望を示す。執筆は、高橋晃一、根本裕史、Achim Bayer、彭毛才旦、李学竹、崔境眞。



構造倫理講座 中村 元著・四六判・各2,970円〈春秋社〉

◆新装版 〈東洋〉の倫理

241頁

仏典に説かれた教えから、親の恩や子への義務、望ましい夫婦関係、経済活動における倫理、親友悪友の条件まで、インド・中国世俗社会の人間関係に関する倫理構造を明らかにする。

◆新装版 〈生きる道〉の倫理

295頁

数ある仏典のなかから選りすぐりの名言を紹介し、苦と苦の原因と苦を感じる心、そして苦の中での生き方を伝える。仏教的生の倫理構造を明らかにする。

◆新装版 〈生命〉の倫理

234頁

インド哲学をはじめ、ショーペンハウアーなどの西洋哲学も駆使して生命の倫理構造を探究し、魂、身体、個人と生命の関係をもって〈いのち〉の尊さを提示する。



◆仏師から見た日本仏像史

—— 一刀三礼、仏のかたち

江里康慧著・四六判・233頁・3,080円 〈ミネルヴァ書房〉

平安時代中期にその後の仏像の祖型を完成させた定朝から、鎌倉時代に最高峰を極めた運慶と快慶へ。仏師として長い経歴を持つ著者が、その流れを通観しつつ、独自の視点で新たな日本仏像史を描き出す。



ちくま新書1618

◆教養としての仏教思想史

木村清孝著・新書判・414頁・1,265円 〈筑摩書房〉

仏教はいかにして現在の形になったのか。数多く存在する部派・宗派を歴史の中に位置づけ、膨大な知の全貌を俯瞰。地域ごとの展開にも目を配り、わかりやすく解説する。これだけは知っておきたい仏教の知識が満載の入門書。



◆お寺を建てる！

—— まるこの道心寺物語

露の団姫著・四六判・211頁・1,760円

〈春秋社〉

「お寺を建てたい」という積年の志。ついに始動した、お寺建立プロジェクト。物件との出会い、地道な貯金……、動き始めた計画に、しかし突如として降りかかったコロナ禍。

落語家で天台宗僧侶の著者が、ひらかれた、街なかの、心の駆け込み寺ができるまでを綴る。夢のはじまり、苦難と結実、そしてこれからの歩みへの決意を、あたたかに照らす一冊。



別冊太陽

◆最澄と天台宗のころ

—— 伝教大師1200年大遠忌記念

桑谷祐顕監修・A4変判・159頁・2,750円

〈平凡社〉

日本天台宗の祖、伝教大師最澄(766-822)の1200年大遠忌を記念し、その生涯と教えを、要点を押さえた解説と美しいカラー図版で伝える。

高僧たちの系譜や天台の秘仏の美も紹介する。



◆最澄に秘められた古寺の謎

—— 伝教大師と辿る比叡山と天台宗

山折哲雄編・新書判・251頁・1,430円

〈ウェッジ〉

没後1200年を迎えることから、最澄の足跡と最澄が開いた天台宗に注目が集まっている。本書では最澄の生涯をたどり、あわせて比叡山や最澄ゆかりの古寺社を紹介。さらには後継となった天台の高僧たちの系譜をもたどることで、日本仏教の母胎となった最澄と天台仏教の魅力を再発見する。



◆地域人 第76号

大正大学地域構想研究所編
A4判・112頁・1,100円

〈大正大学出版会〉

■目次

特集 日本の聖地——信仰と観光
聖地——にぎわいの深奥に在るもの
比叡山延暦寺 十二年龍山行
東大寺二月堂 修二会
羽黒修験 秋峰
伊勢神宮 日別朝夕大御饗祭

ほか



東哲叢書 仏典現代語訳シリーズⅣ

◆現代語訳 法華玄義釈籤(中)

湛然述、菅野博史、松森秀幸訳注

A5判・657頁・7,700円

〈東洋哲学研究所〉

中国・天台宗の中興の祖、妙楽大師湛然は、天台三大部の『法華玄義』、『法華文句』、『摩訶止観』に注釈をつけ、智顗の教理の研究と普及に努めた。本書は湛然の注釈書『法華玄義釈籤』に詳細な注を付した現代語訳である。五重玄義の各論の智妙から三法妙まで(釈籤巻第七～巻第十一)を収める。



◆法華衆の芸術

高橋伸城著・A5判・189頁・1,870円

〈第三文明社〉

本阿弥光悦、長谷川等伯、尾形光琳、葛飾北斎など、国内外に知られる巨匠たちは、なぜそろって法華衆だったのか。一見すると彼らの作品に宗教的な色合いはない。日蓮生誕800年の節目に「法華芸術」という新しい視点から概観する日本美術史論。宮島達男氏(現代美術家)との対談、河野元昭氏(東京大学名誉教授)へのインタビューも収録。



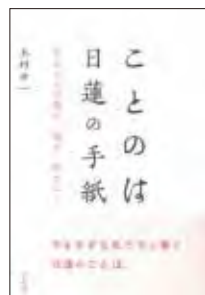
◆ことのは 日蓮の手紙

—— 生きるとは想い、悩み、許すこと

木村中一著・四六判・269頁・2,860円

〈平凡社〉

本書では、著者のもとに届いた悩みを軸にしながら、それらの悩みが解決する方向へと導くかもしれないだろうと思われる日蓮の言葉を紹介する。その際、難解な表現は避け、また、独特の仏教用語などには解説も加えた。そのほか、日蓮の評伝、ゆかりの寺院案内、略年譜も掲載。



◆日蓮に学ぶレジリエンス

—— 不条理な人生を生き抜くために

平岡 聡著・四六判・208頁・1,980円

〈大法輪閣〉

数々の苦難に出遭いながらも、決して挫けることなく自らの信じた道を歩み続けた日蓮。

困難や挫折を乗り越えて、より強く生きられる人たちに共通している能力“レジリエンス”を日蓮に学ぶ!



◆中国華嚴思想研究

—— 澄観の華嚴経疏鈔を中心に

浄厳(徐海基)著・菊判・474頁・6,600円 〈山喜房佛書林〉

澄観の著作の中で質量ともに中心をなす『大方広仏華嚴経疏』(『疏』)と『大方広仏華嚴経随疏演義鈔』(『演義鈔』)から華嚴の中心思想である「法界観」、「唯心観」の問題を集中的に分析し、それを思想的に位置づけることを目指す。



◆「弘法大師」の誕生

—— 大師号下賜と入定留身信仰

武内孝善著・四六判・231頁・2,970円 〈春秋社〉

2021年は空海に「弘法大師」号が与えられてから1100年目にあたる。どのような経緯でこの名前が与えられたか、また高野山で今もなお生前の姿でいるという伝説はどのようにして生まれたのか。これら弘法大師の謎を史料から緻密に検討し解き明かした初めての書。



◆碧巖の炎

木村太邦著・四六判・246頁・2,420円 〈春秋社〉

禅の代表的な語録『碧巖録』百則を、当代随一の禅僧が提唱。『碧巖の風』『碧巖の海』『碧巖の空』『碧巖の森』『碧巖の峰』『碧巖の雲』に引き続き、第84則から第93則までを熱く語る第7巻。碧巖録もいよいよ百則近く、提唱は一段とヒートアップ。真実の生きざまを求める人々に贈る、真摯にして爽快、目からウロコの必読の書。



◆新 坐禅のすすめ

—— 座禅経験者にこそ薦める

禅文化研究所編・A5判・184頁・1,320円 〈禅文化研究所〉

旧刊『坐禅のすすめ』は、山田無文、大森曹玄、平田精耕という昭和を代表する老師方の玉稿が錚々と並ぶ、多くの方々に読まれたロングセラーであった。そして令和の今、情報過多でwithコロナの現代に沿った坐禅のすすめ。「『坐禅儀』を読む」「実習 白隠『内観の法』」「対談 坐禅で腰を立てるとは」「文献にみる坐禅の変遷」などを収録する。用語解説、坐禅会常用經典付き。



◆戦後日本と国家神道

—— 天皇崇敬をめぐる宗教と政治

島蘭 進著・四六判・422頁・3,850円

〈岩波書店〉

「国家神道」とは何か。敗戦時に解体されたはずが、大きく縮減されつつも戦後も存続し、その「復興」を目指す動きは途絶えることなく試みられてきた。本書は「神聖天皇の崇敬」という側面に注目することで、国家神道をめぐる論点を整理するとともに、戦後日本の国家の底流にある「国体護持」の観念と神道の関わりや、日本国憲法下の象徴天皇制の在り方に考察を及ぼす。

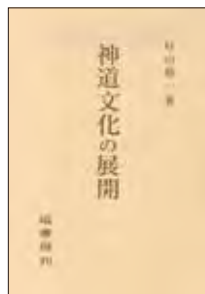


◆神道文化の展開

村山修一著・A5判・427頁・14,300円

〈塙書房〉

①神道文化の誕生、②神道の変貌と展開、③遺宝と史料の三部にまとめ、あまり知られていない神像彫刻など神道に関する論文を中心に、著者の学問世界の基礎を提示する。



◆たたかう神仏の図像学

—— 勝軍地藏と中世社会

黒田 智著・A5判・321頁・4,180円

〈吉川弘文館〉

戦乱に明け暮れる中世社会。人びとは、仏法により正当化された武を奮い、平和と安穩を創造する神仏を希求した。軍神たる勝軍地藏は、どのようにして誕生し、時代とともに変貌をとげながら、今日まで生きつづけたのか。列島各地に残る700点余の作例から、勝軍地藏信仰の誕生と中世的世界観を読み解き、800年にわたる戦争と平和の歴史を辿る。



◆「神」と「わたし」の哲学

—— キリスト教とギリシア哲学が織りなす中世

八木雄二著・四六判・307頁・3,080円

〈春秋社〉

神の存在証明や普遍論争がなぜ大問題になるのか。西洋と日本の言語構造の違いに着目し、アンセルムス、トマス、スコトゥス、エックハルト、オッカムら重要哲学者の思索をたどって中世哲学の主要論点を精査、我々とは全く異質な西洋思想の本質をあぶりだす。



◆沖縄の復帰とキリスト教会

小林紀由著・A5判・129頁・2,090円

〈北樹出版〉

宗教学の立場から沖縄の復帰前後のキリスト教プロテスタント諸教派の動向とキリスト者の思想とを分析。キリスト諸教派の取り組みを通して、沖縄の復帰そのものを見直す。



法蔵館書店新着雑誌案内

◆同朋 2月号

真宗大谷派宗務所出版部編・A4判・56頁・400円〈東本願寺出版〉

「仏教がみちびく、あらたな人生」をコンセプトに、生活に密着した話題から親鸞聖人の教えまで、日々の暮らしのなかにある大切なことを見つめる月刊誌。

■目次

◎インタビュー 竹下景子さん(俳優)

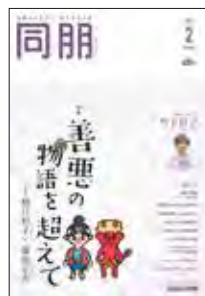
「一人になる」とは、私自身への問いかけの言葉。

◎特別企画 善悪の物語を超えて

・親鸞万華鏡……ゲスト:伊藤比呂美

・小林聡美のぼちぼち是好日

・東本願寺界限 今昔物語……「森信三郎商舗」 ほか



◆大乘 2月号

大乘刊行会編・B5判・88頁・375円〈本願寺出版社〉

門信徒の家族が楽しく浄土真宗に親しむための月刊誌。お念仏のよろこびをご家族のみなさまにお届けします。研修会や勉強会にも最適！ 門徒推進員の方にもおすすめです。

■目次

・釈徹宗の随縁探訪……ゲスト:観山正見さん

・DAIJO法話「父の遺言」……福岡義朝

・マンガ お釈迦さま物語「苦行」……岡橋徹栄×一ノ瀬かおる

・親鸞聖人いまさは「経典の真意」……葛野洋明

・教えて! 浄土真宗「四法の大意」……藤澤信照 ほか



特集1 「葬儀」と「死」のゆくえ

直葬・家族葬・一日葬……、今までなかった葬儀が行われるようになり葬儀が急激に変化しました。儀礼の意味が分からなくなり、崩壊してしまったといわれています。葬儀、死者の課題をどうするのか。今月は新刊『真宗と現代葬儀』の出版を記念した「葬儀と死のゆくえ」特集です。

◆真宗と現代葬儀

——「葬儀」と「死」のゆくえ

蒲池勢至著・四六判・148頁・1,430円・※6269-3

商品化し世俗化した葬儀。ホトケですらない死者。急速に変化する現代葬儀に真宗はどう対応するのか。住職として多数の葬儀を執行してきた著者が民俗から問う葬儀と死のゆくえ。

(法藏館)



◆真宗門徒はどこへ行くのか

——崩壊する伝承と葬儀

蒲池勢至著・四六判・206頁・1,980円・※6230-3

真宗門徒はどのように生き死んでいったか。信仰生活が崩壊しつつある現実と、激変する葬儀のあり方を問い直し、信仰とは何かを探る。

(法藏館)



五来重著作集

五来 重著・赤田光男解説・A5判・9,350円

第3巻 日本人の死生観と葬墓史 385頁・※3409-6

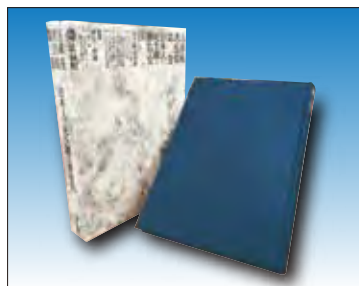
I 日本人の死生観・他界観 II 葬法と葬儀 III 墓と供養

第11巻 葬と供養 上 525頁・※3417-1

I 葬法論——凶癘魂と鎮魂
II 葬具論——その宗教的観念

第12巻 葬と供養 下 537頁・※3418-8

III 葬儀論1——臨終儀礼
IV 葬儀論2——殯斂儀礼



◆お葬式の言葉と風習

—— 柳田國男『葬送習俗語彙』の絵解き事典

高橋繁行著・四六判・191頁・1980円

枕返し、夜伽、逆さ水……隠語と珍しい風習！ 中外日報の「葬儀の習俗 絵解き事典」を連載していた高橋繁行先生が、柳田國男『葬送習俗語彙』（昭和12年）で取り上げられた言葉の中から約180を選び、不思議な魅力をもつ切り絵とともに解説。（創元社）



◆葬送習俗事典—— 死穢の民俗学手帳

柳田國男著・文庫判・256頁・990円

埋葬地から帰るときはあとを振り返ってはいけな、死家と飲食の火を共有してはいけなど、全国各地に伝わる風習を克明に網羅。葬儀関係者に必携。（河出書房新書）



◆日本人の葬儀【角川ソフィア文庫J135-1】

新谷尚紀著・文庫判・470頁・1,408円

日本人の「葬儀」はどのような歴史をたどってきたのか。各地に伝わる葬送や墓制の実態と意味を検討し、そこに現れる日本人の死生観、他界観、民俗的心性を探る。（KADOKAWA）



◆葬式のはなし

菅 純和著・四六判・104頁・1,100円・※6418-5

「喪主は誰が務めるのがいいのか」「葬儀の相場」「焼香の作法」など、葬儀とその後に関する50の疑問に明快に答える。（法藏館）



◆ねえ、お坊さん教えてよ どうしてお葬式をするの？

岡崎秀麿、富島信海著・A5判・137頁・1,760円

「葬儀」へのギモン、「法事」へのギモン、さまざまなギモンにQ&A形式でわかりやすく答えます。（本願寺出版社）



特集2 多摩親鸞講座講義録

1995年から東京・町田市で開催されている入門講座「多摩親鸞講座」の内容をまとめた講義録が入荷しました。一般の方むけの講座なので、どれも平易な内容です。一般書店での取り扱いはありませんので、この機会にお求めください。

全てA5判・1,200円

・ブッダと親鸞(多摩親鸞講座事務局)

釈尊の教えと親鸞聖人の教え 古田和弘講述・205頁

『観無量寿経』序分に学ぶ 古田和弘講述・201頁

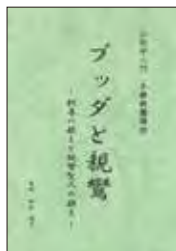
救済の歴史 狐野秀存講述・181頁

今ここに届く親鸞の教え『正信偈』

狐野秀存講述・180頁

今ここに届く親鸞の教え『歎異抄』

狐野秀存講述・238頁



2011年から2016年にかけて「ブッダと親鸞」をメインテーマに、異なる年間テーマで行われた講座の内容を収載。2011年・2012年は古田師、2014年から2016年は狐野師が講義を担当。 ※2013年「大いなる願い」は品切れ

・生きる

三橋尚伸講述・195頁(多摩親鸞講座事務局)

・生きる～現代の王舎城～

三橋尚伸講述・185頁(多摩親鸞講座事務局)

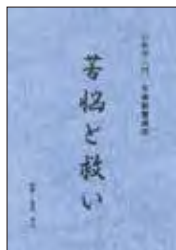
大谷派僧侶・産業カウンセラーの三橋尚伸氏による、2018年と2019年の講座の講義録。前者では仏教と心理学の視点から「生老病死」を生きるわが身について、後者では「王舎城の悲劇」を道しるべにしながら、教えと私たちの事実・現実の重なりについて考えていく。



・苦悩と救い

狐野秀存講述・169頁(多摩親鸞講座事務局)

2017年3月から6月の4回の講義。仏教の根本教理の一つである四諦【苦・集・滅・道】を「現代の言葉」にかえ、自分自身を見つめ、その自分にこそ問題の芽があると説く。



お知らせ

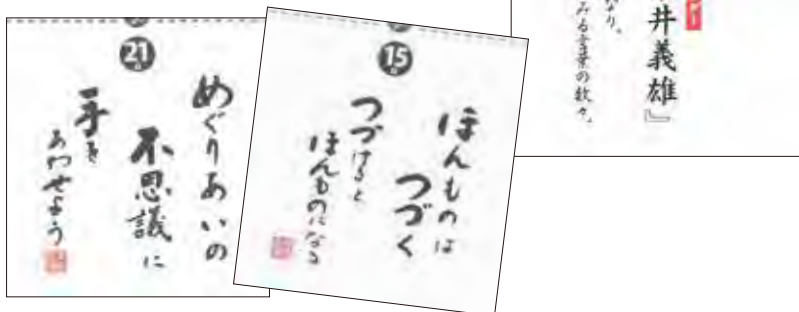
東井義雄先生の日めくりカレンダー発売！

日めくり万年カレンダー 直筆版『東井義雄』

東井義雄記念館監修・24cm×20cm・31頁・1,100円(方丈堂出版)

弊社「ほのぼのカレンダー」でも毎年ご好評をいただいている東井義雄先生の言葉が日めくりカレンダーになりました！

「いのちの教育」を求め続けた東井先生の珠玉の言葉を毎日味わっていただけます。



雑誌『K』取扱中

西岡圭司編・B5判

京都市のNPO法人「Knit-K」(ニック)が発行する雑誌『K』の取扱いを開始しました。現在までに3号発行されています。連載記事として、東海大学教授・片山章雄先生が大谷探検隊について書かれた「西域を読み解く」が掲載されています。

・ 0号 [在庫僅少]

特集：遠くの親戚より近くの他人——沖縄・台湾
48頁・1,100円

・ 1号

特集：イタク 言葉をつなぐ
64頁・1,430円

・ 2号

特集：琵琶湖 400万年のいとなみ
64頁・1,430円



◆◆◆法藏館書店売行ベスト10(1月期)◆◆◆

順位	書名	著者名	出版社名	定価(税込)
1	南無阿弥陀仏のすくい	瓜生 崇	響流書房	110円
2	溶け合う世界へ——南無阿弥陀仏のすくい 2	瓜生 崇	響流書房	110円
3	生死出すべき道——コロナの時代、 私たちはいかに生きるべきか	一楽 真	真宗大谷派 大阪教区第十二組	200円
4	二河白道ものがたり——いのちに目覚める	英月	春秋社	1,980円
5	親鸞の出遇った世界 浄土真宗 I【教行信証化身土巻講義】	平野 修	真宗大谷派 大阪教務所	2,530円
6	今日の宗教の可能性	大峯 顯	百華苑	1,320円
7	ねえ、お坊さん教えてよ 死んだらどうなるの？	岡崎秀麿 富島信海	本願寺出版社	1,760円
8	ねえ、お坊さん教えてよ どうしてお葬式をするの？	岡崎秀麿 富島信海	本願寺出版社	1,760円
9	真宗と現代葬儀——「葬儀」と「死」のゆくえ	蒲池勢至	法藏館	1,430円
10	浄土真宗とは何か——『教行信証』のころ	金子大榮	東本願寺出版	825円

【メール配信サービスのご案内】

法藏館書店では、WEBサイトで本をご購入いただいた方やアンケートにお答えいただいた方に新刊情報などのメール配信サービスを行っております。

◎アドレス変更・配信停止について◎

<http://www.hozokan.co.jp>のページ下の「メールサービス」から、メールアドレスの登録と解除を行ってください。過去のメールもご覧になれます。

- ◆ご注文・お問い合わせは、メールの他に、電話・FAX・はがきでも承ります。店頭在庫がない場合はお取り寄せとなります。ご了承ください。
- ◆荷送料はご購入額合計により
定価16,500円(税込)未満 送料——450円 代引手数料 330円
定価16,500円(税込)以上 送料、代引手数料ともに無料
- ◆価格表示は全て税込価格です。

法藏館書店 友の会会員募集中!

友の会に入会すると、割引や来店特典など多数の特典をご用意しております。

詳しくはここをクリック 





法藏館書店

住 所: 〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
電 話: 075-343-0458 FAX: 075-371-0458
発行人: 西村明高
E-mail: shop@hozokan.co.jp

[営業日および営業時間]
月～土: 9:30～18:00
祝 日: 10:30～18:00
(休業日: 毎週日曜日・お盆・年末年始)

<http://www.hozokan.co.jp>

仏教の風

検索 

仏教書総目録刊行会 <http://www.bukkyosyo.gr.jp>

法藏館ブログ「編集室の机から」を更新中!

twitter

facebook

つぶやき中～!

